

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.92) 2014/02/10

目次

1. 第40回日本保健医療社会学会大会(仙台)の演題登録の延長について!
2. 第40回日本保健医療社会学会大会への参加の事前登録のお勧め
3. 第40回日本保健医療社会学会大会案内(第2報)
4. 理事会報告(三井さよ理事)
5. 渉外国際担当理事報告(金子雅彦理事)
6. 編集委員会報告(小澤温理事)
7. 研究活動報告
8. 新入会員および退会者の承認
9. その他

-
1. 第40回日本保健医療社会学会大会(仙台)の演題登録の延長について!

平成26年5月17日(土)18日(日)東北大学医学部保健学科・東北大学病院で開催される第40回日本保健医療社会学会大会について、演題登録にまだ余裕があります。演題登録を2月15日(土)まで延長します。発表希望の会員はふるって御応募ください。詳しくは、ニューズレターの項目2. および3. をご覧ください。

2. 第40回日本保健医療社会学会大会への参加の事前登録のお勧め

本年度の大会のメインテーマは「保健医療福祉のヒューマンリソース」です。下記のリンク先にあるように、本大会長の朝倉京子先生(東北大学大学院医学系研究科)は「人口構造の変化により、日本国内では保健医療福祉のニーズが高まり「保健医療福祉領域での質の高い人材の確保がますます重要」になるにも関わらず「保健医療福祉職の長期安定的な確保」等の困難な課題が山積しており、具体的改善にむけての課題が求められることを述べられておられます。その意味で、この問題意識を共有する会員にはとても重要な大会になることと思われます。多くの会員の皆さんの参加と事前登録をお待ちしております。

- ご挨拶(朝倉京子第30回大会長)

<http://square.umin.ac.jp/medsocio/conf2014/greetings.html>

- 事前登録の案内(振替用紙は『論集』第24巻2号冊子にも同封されています)

<http://square.umin.ac.jp/medsocio/conf2014/entry.html>

詳しくは、このニューズレターの項目の3. 2をご覧ください。

3. 第40回日本保健医療社会学会大会案内(第2報)

3. 1 開催概要

大会長：朝倉京子（東北大学大学院医学系研究科）

日時：2014年5月17日（土）、18日（日）

場所：東北大学医学部、東北大学病院

<http://www.med.tohoku.ac.jp/access/>

メインテーマ：保健医療福祉のヒューマンリソース

大会ホームページ：<http://square.umin.ac.jp/medsocio/conf2014/index.html>

大会事務局：東北大学大学院医学系研究科看護教育・管理学分野内

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1

E-mail jsmhs40@nem.med.tohoku.ac.jp

事務局長：佐藤みほ

- ・プログラムを公開しました。<http://square.umin.ac.jp/medsocio/conf2014/program.html>

3. 2 事前参加申し込みについて

2014年4月10日（木）まで、大会の事前参加申し込みを受け付けております。詳細は以下をご覧ください。

<http://square.umin.ac.jp/medsocio/conf2014/entry.html>

※2014年4月11日以降は当日参加費が適用されます。

3. 3. 一般演題申し込みを受け付けています。【締め切り：2014年2月15日（土）】

- ・一般演題は口演とポスター発表で募集します。
- ・発表者（共同演者を含む）は本学会会員に限ります。単年度会員制度を設けていますので、非会員の方と共同発表をご予定の場合は手続きをお願いします。
- ・発表内容は未発表のものに限り、また一般演題の登録は一人につき1演題とします。共同演者としての登録はこの限りではありません。
- ・演題はインターネットにて受付いたします。詳細は、以下をご覧ください。

<http://square.umin.ac.jp/medsocio/conf2014/abstracts.html>

3. 4 懇親会のご案内

大会と同日に開催される仙台・青葉祭りを皆様にお楽しみいただけるよう、青葉祭り会場近くのレストランで大会の懇親会を開催する予定です。懇親会への皆様のご参加をお待ち申し上げます。詳細は追って、会員メール、大会ホームページにてご案内いたします。

4. 理事会報告（三井さよ理事）

- ・日時：2013年12月15日（日） 13:00～16:00
- ・会場：（株）国際文献社 アカデミーセンター 4階会議室
- ・出席者：黒田会長、朝倉理事、小澤理事、金子理事、清水理事、進藤理事、
- ・林理事、三井理事、事務局 金村、平野（記）
- ・欠席者：池田理事、木下理事

4. 1 第40回大会について

- ・第40回大会長の朝倉理事より第40回大会準備の進捗状況について報告がなされた。
- ・ポスター発表はボードの都合上、12枚を超えた場合は2日間に分けて行うことが提案され、承認された。
- ・ポスターについては第一弾と第二弾を作成し、第一弾ポスターと参加費振込用紙は1月発行予定の論集2号に同封することとなった。第二弾ポスターは東北地方の病院等に配布し、東北からの参加者募集を呼びかけることとした。
- ・大会時の特別号は当日一律2000円で、当日以外は3000円とすることが提案され、承認された。

4. 2 ニューズレター92号の配信について

- ・三井理事(池田理事の代理)よりニューズレターのメール配信にあたり、個人名を載せない等の注意事項の説明がなされた。ニューズレターに掲載していた入退会者については総会時の配布資料のみに載せることとなった。
- ・今までのニューズレターに準じたもののPDF版を学会ホームページに載せることにし、メール配信する内容はごく簡略版とすることが提案された。どのような簡略版にするのかは池田理事と事務局で決めていくこととなった。
- ・HPの管理は広報担当理事としていたが、ニューズレターの配信時期と重なることが多いため、総務担当理事が行うことが承認された。

4. 3 編集委員会報告

- ・小澤理事より10月19日開催編集委員会にて1論文にて3名の査読者を決定し、論集2号の掲載予定原稿と状況が報告された。
- ・25巻1号の執筆候補者を決定し、内諾を得られたことが報告された。
- ・電子アーカイブ化に伴い、NII-ELSに掲載手続きを進めることになり、会員数等の必要な情報を事務局で記載することとなった。

4. 4 定例研究会の報告、企画について(関東)

- ・清水理事より第2回定例研究会について、平成26年2月22日に行い堀田聰子先生に介護労働等について講演していただくことが報告された。

4. 5 定例研究会の報告、企画について(関西)

- ・林理事より第2回定例研究会について、平成26年2月1日に大阪市立大学梅田キャンパスにて村上靖彦先生にお越しいただくことが報告された。

4. 6 渉外国際活動(および社会学系コンソーシアム)

- ・金子理事より社会学系コンソーシアム公開シンポジウムについて平成26年1月26日に行われることが報告された。

4. 7 学会賞の委員について

・学会賞の選定委員が決定した。

4. 8 消費税増税に伴う論集の販売価格について

・三井理事より、消費税増税に伴う論集の販売価格について定期購読会員よりお問い合わせがあったことが報告された。来年の印刷費等の値上がりがあるため、次回3月理事会にて予算を見てから決定することとなった。

4. 9 2013年度 前期予算執行状況

・三井理事より2013年度の予算執行状況が報告された。次期繰り越し金額が200万円ほどであることから、年2回の編集委員会旅費を支払うことが提案され、承認された。

4. 10 その他

・三井理事より学会の入会案内ページについては、三井理事と事務局に一任してもらうことが提案され、承認された。

5. 渉外国際担当理事報告 (金子雅彦理事)

5. 1 第18回世界社会学会議横浜大会について

ISA 横浜大会 (第18回世界社会学会議) が、2014年7月13~19日にパシフィコ横浜で開催されます。世界の社会学者と交流を深める良い機会ですので、会員の皆様は奮ってご参加ください。2014年4月1日までに登録すると参加費が安くなりますので、お早めにご登録ください。詳細についてはISAのHPの横浜大会ページ (下記) などでご確認ください。また、上記URLを含む諸情報を本学会HPのISA横浜大会ページに掲載しています。

- 第18回世界社会学会議 (ISA) 横浜大会

<http://www.isa-sociology.org/congress2014/>

5. 2 学会からのツアー企画はありません

ISA 横浜大会時の医療関連施設見学ツアー企画を検討しましたが、協議の結果日本保健医療社会学会としてツアーを企画することは断念しました。

5. 3 国際会議情報の募集

ISA 横浜大会以外にも、本学会HP (関連団体等の情報ページ) に保健医療社会学関連の国際会議情報を掲載します。

学会HPに掲載してほしい国際会議の情報がありましたら、ご連絡ください。

連絡先：金子雅彦 (kaneko@ndmc.ac.jp)

6. 編集委員会報告 (小澤温理事)

2013年10月に、今年度3回目の編集委員会を開催し以下の事項を審議した。9月末締め切りの投稿論文に関し編集委員担当者と査読者を選定した。第24巻2号の掲載予定原稿の掲載順と構成を確認した。第25巻1号の特集を検討し保健医療社会学の4つの分野の研究動向の特集を行うこととし執筆者を選定した。その他、献本された書籍に関して書評執筆者の検討を行った。

7. 研究活動報告

研究活動報告は、7. 1 報告と案内：関西、7. 2 報告と案内：看護・ケア研究部会、7. 3 第40回大会RTDのご案内、7. 4 案内：関東 の順で下記に報告します。

7. 1 報告と案内：関西（進藤雄三理事・林千冬理事）

（1）第221回定例研究会（関西）

日時：平成25年10月5日（土）15:30～17:30

場所：大阪市立大学梅田キャンパス（駅前第2ビル6階 文化交流センター）

<https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/academics/institution/bunko/index.html>

報告者：山田富秋先生（松山大学）

タイトル：ライフストーリー研究における理解の達成——薬害HIV感染被害の社会学的調査から

山田先生は、2001年から2010年にかけてなされた「輸入製剤による薬害HIV感染被害調査研究委員会」の研究成果を、著書『フィールドワークのアポリア』に依拠しつつ、ライフストーリーの観点から詳説された。メディアによって構築された単純な加害—被害構造の図式を、ライフストーリーの丹念な解読・文脈化を通して溶解させてゆくプロセスはスリリングで刺激的なものであった。同時に、社会学者という外側に位置するものが、いかにして内部理解にたちいたったか、いたりえたのかを描くことによって、自省を強いられる方法論的な問題提起もあった。

報告後、10数名程度の参加者による自由討議を行い、事実確認あるいは方法論的問題をめぐって、活発な意見交換がなされた。

（2）第222回定例研究会（関西）

日時：平成26年2月1日（土）

場所：大阪市立大学梅田キャンパス（駅前第2ビル6階 文化交流センター）

<https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/academics/institution/bunko/index.html>

報告者：村上靖彦先生（大阪大学）

タイトル：精神科看護師の語りを通じた現象学的研究

概要：近著『摘便とお花見』が話題の現象学者、村上靖彦先生をお招きし、現象学者として看護実践にどのように近づき、どう分析していかれたのかといった研究方法論的な話題とともに、現在進行中の単科精神病院ならびに精神科デイケアでの調査についてもお話いただきました。

【編集部からのお詫び】

・関西地区担当理事の御両名からの本ニューズレターの原稿を、第222回定例研究会（関西）

開催日以前に、戴いておりましたが、諸般の都合で発刊が遅れ、掲載に間に合いませんでした。そのため編集担当理事により、当該記事内容を事後報告の形で文章を変更した上で、記載しております。両理事ならびに報告者の村上靖彦先生に深くお詫び申し上げます。

7. 2 報告と案内：看護・ケア研究部会（三井さよ理事・兼・看護・ケア研究部会長）

（1）研究活動報告

＜報告：看護・ケア研究部会：2013年度 第2回定例研究会、公開企画＞

2013年度第2回定例研究会が、9月28日に東京女子医科大学河田町キャンパスで開催され、海老田大五朗さん（新潟青陵大学）が「相互行為から柔道整復を記述する：学位申請論文『柔道整復師と患者の相互行為』の概要」について報告しました。報告要旨は次の通りです。本報告の目的は、学位論文である拙著『柔道整復師と患者の相互行為』について発表し、本論文の意義を医療実践者の集まる看護・ケア部会において議論することであった。論文において明らかになった知見を報告し、こうした知見が学術界ではどのような評価を受けるか、実践者からはどのような評価がなされるかが話し合われた。論文は医療実践者からの意見を取り入れて構成されている。本論文では大きく分けて7つのデータを分析しているが、その全てがひとつの医療的活動（たとえば問診や触診など）の始めから終わりまでを含んでいる。これは「相互行為を相互行為の断片として検討しても医療者が得られるものは少なく、ひとつの医療的活動の単位のなかに相互行為を包括したものとして提示したほうが、医療実践者としても受け入れやすい」という医療実践者の意見を取り入れたためだ。こうした医療実践者に寄り添った記述が、どのような学術的な意味を持つのか。これがくり返し問われ続けることが確認された。

2013年度公開企画「『介護事故』をどう考えるか？——法政策の現状と、現場の状況から」（福祉社会学会と共催）が、11月30日に日本赤十字看護大学広尾キャンパスで開催されました（司会は三井さよ（法政大学）。以下、文責は三井）。

まず、長沼建一郎さん（法政大学）から、ご著書『介護事故の法政策と保険政策』の内容をご紹介いただくとともに、その後の傾向等にも解説していただいた上で、それぞれの判決について法学者の中でもさまざまな立場があることなど、わかりやすく話していただきました。そして、現在の介護事故の判決では、たとえば「もう少しなんとかできたはずだ」ということで不作為による過失を認めてしまっているが、これは福祉領域の規範（had better）と法規範（must）の混同でもあるという指摘があり、ケア言説の過剰さを改めて痛感させられました。

討論者として、まず宇城令さん（聖隷クリストファー大学）から、自治医科大学病院での転倒予防の取り組みについてご紹介いただきました。ころばぬ先のパンフレットなどの作成に加え、全病室に手すりがついたこと、そうした取り組みが実際にどのように進んだかなど、解説していただきました。

また、岡部耕典さん（早稲田大学）から、「安全性の確保」は「もっとも基本的な利益」なのだろうかという根本的なところから改めて問いが寄せられました。入所施設と地域での発想の仕方について問題提起がなされるとともに、現状として家族に責任が問われてしまうことについても指摘がありました。

フロアからは、判決の議論の仕方等についても質問が出て、本人の意思をどこまで中心として考えるべきか、施設と地域の違い、ケア言説についてなど、議論がなされました。総じて、

看護や介護という枠ではなく、人の生活において安全という問題をどのように考えるかという議論ができたように思います。

2013 年度第 3 回定例研究会が、1 月 12 日 (日) に東京女子医科大学河田町キャンパスで開催され、三井さよ (法政大学) が「ケア労働と組織」について報告しました。報告要旨は次の通りです。今回の報告では、ケア労働をどのように捉えられるかという試論を報告した。ケア労働のひとつの極に、報告者が以前からかかわってきた看護職をおき、もうひとつの極に近年になって報告者が参与観察している、重度知的障害・自閉の人たちの自立生活支援の現場で働く支援者たちをおきながら、ケア労働に共通した特性と、内部での多様性を捉えかえそうとした。具体的には、公私の区別の困難、専門職論の再考、新たな協働モデル、〈場〉の議論などの試案を提示した。フロアとの間で、社会学的な概念の使い方の妥当性について、看護職と地域生活支援ヘルパーの異同について、専門職の定義についてなど、さまざまな議論がなされた。

看護・ケア研究部会問合せ先: 事務局 本多康生 (yasuohonda@fukuoka-u.ac.jp)

(2) 看護・ケア研究部会: 2013 年度 第 4 回定例研究会

日 時: 3 月 22 日 (土) 13:30~17:00

場 所: 東京女子医科大学看護学部 第 2 校舎 241 教室

報告者: 白瀬由美香さん (国立社会保障・人口問題研究所)

報告者: 本多康生さん (福岡大学)

タイトル等は未定

看護・ケア研究部会問合せ先: 事務局 本多康生 (yasuohonda@fukuoka-u.ac.jp)

(看護・ケア研究部会長: 三井さよ)

7. 3 第 40 回大会 RTD のご案内 (清水準一理事・木下康仁理事)

<第 40 回大会 RTD のご案内>

平成 26 年 5 月の第 40 回大会で実施するラウンドテーブル・ディスカッション (RTD) に 5 題の申し込みがあり、審議の結果すべてを採択としました。以下に、企画者と演題名を示します。(順不同: 敬称略)

◎秋谷直矩 (京都大学)、海老田大五朗 (新潟青陵大学): 認知症を患う高齢者への支援実践から学ぶ ~相互行為・ワーク・概念の分析~

◎西村ユミ (首都大学東京大学院): 看護実践の「質」と現象学的研究

◎佐藤 (佐久間) りか (NPO 法人健康と病いの語りディベックス・ジャパン): 「当事者の語り」の社会資源化をめぐるジレンマ~健康と病いの語りデータベースの構築を通じて感じること

◎竹内慶至 (金沢大学子どものこころの発達研究センター): 発達障害学生支援の臨床社会学~支援と研究、教育の間で考える~

◎平野裕子 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科): 内なる国際化と保健医療福祉人材—日本の看護・介護ヒューマンリソースの観点からみた外国人看護師・ケアワーカーの市場参入

7. 4 案内: 関東 (清水準一理事・木下康仁理事)

第 223 回定例研究会 (関東)

日 時：平成 26 年 2 月 22 日 (土) 14:00～16:00

場 所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス会議室 A・B (秋葉原ダイビル 1 3 階)

http://www.tmu.ac.jp/university/campus_guide/access.html#mapakihabara

報告者：堀田聰子先生 (労働政策研究・研修機構：研究員)

<http://www.jil.go.jp/profile/shotta.html>

タイトル：地域包括ケアの担い手を考える

概要：住み慣れた地域でその人らしい暮らしを支える地域包括ケアシステムの構築と担い手確保が喫緊の課題となっている。本報告では、まずケアの担い手のうち介護保険事業に従事する介護職に焦点をあて、介護労働市場、介護労働力需要及び介護人材政策の動向を概観する。そのうえで、広くケアの担い手をめぐる諸外国における政策・研究の潮流を紹介し、ケアの担い手の充実と地域包括ケアのまちづくりに向けた課題を展望する。

8. 新入会員および退会者の承認

・2013 年 12 月 15 日 (日) 開催の理事会において、新入会員 2 名 (11～12 月の 1 か月間) の承認がされました。ただし本ニューズレターの 4. 2 にあるように、入退会者の氏名は総会時の配布資料以外には公開されません。会員の皆様には御了承願います。

9. その他

・日本保健医療社会学会ニューズレター 91 号でお知らせしたように、本 92 号からはメールマガジン形式で配信します。ただし、本号は会員の皆様への最初の配信のため、場合によれば文字化け等で判読できない場合も考えられます。そのため、当面は、メールマガジン形式とあわせて pdf ファイルの送信をおこないます。もしメールマガジンの文字が読めない場合などの受信に問題がある場合は、恐れ入りますが、日本保健医療社会学会事務局 (下記) まで御連絡ください。

発行：日本保健医療社会学会

編集：会報広報担当 (池田光穂) ・ (株) 国際文献社

学会事務局：

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

jshms-office@bunken.co.jp

03(5389)02372